富里市 防災マップ

我が家の防災メモ（災害時の主な連絡先）

●最寄りの避難所

避難所予定施設		
家族の集合場所		

●家族などの連絡先

名　前	会社・学校等	電話番号	名　前	会社・学校等	電話番号

編集・発行　富里市　総務部　防災課　TEL:0476-93-1114

備え 災害への備え

市民の皆様へのお願い

●備蓄、非常持ち出し品の準備

3日分の飲料水・食料、携帯トイレット・トイレットペーパーなどの備蓄、非常持ち出し品（救急箱、常備薬、お薬手帳、ライト、ラジオ、乾電池など）の準備をお願いします。

●ブロック塀の倒壊防止

ブロック塀の倒壊は、人的被害だけでなく、倒壊したブロックが道路を塞ぎ、避難や救助活動の妨げになります。ブロック塀の劣化、鉄筋の不足、高過ぎるなど、構造上に問題はないか確認をお願いします。

●火災予防対策（住宅用火災警報器の設置）

住宅火災による死者の多くは、火災の発見の遅れから逃げ遅れるのが最大の原因です。住宅火災から大切な家族を守るため、必ず住宅の寝室などの定められた場所に火災警報器を設置し、火災予防対策をお願いします。

●エレベーターにおける閉じ込め防止策

エレベーターの閉じ込めを防ぐには、定期点検及び最新の安全装置への設置が必要です。エレベーターが設置されている建物の所有者は、定期点検及び安全装置の設置をお願いします。

●消火器の設置及び点検

消火器は、見やすい場所に設置し、また、使用期限は過ぎていないか、安全ピンは付いているか、キャップは緩んでいないか、底などが錆びていないかなど、日頃の点検をお願いします。

●住宅の耐震化及び窓ガラスの飛散防止の実施

住宅の耐震診断や改修をお願いします。また、万一、ガラスが割れても破片の飛散を防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼るようお願いします。

●災害時の行動などの確認

日頃から、災害時の行動や支援などについて、家族で防災会議を行ったり、地域の方々と話し合って確認するようお願いします。また、地域で行う防災訓練などに積極的に参加して、自ら が執るべき災害時の行動を確認するようお願いします。

●生活用水の確保

風呂の浴槽の水などは、次に入るまで栓を抜かずに蓋をしておき、生活用水を確保するようお願いします。

企業の皆様へのお願い

従業員などを事業所内に一定期間とどめるために必要となる飲料水・食料、物資などの備蓄をお願いします。これらの備蓄を準備しておくことで、自社だけでなく、周囲への支援を行うことも可能になりますので、御協力をお願いします。

飲料水・食料、医薬品、携帯トイレ、防水シート、テント、ラジオ、乾電池、携帯電話の充電器、発電機、ヘルメット、軍手、長靴、自転車、担架、ハンマー・バール・ジャッキなどの工具類、メガホン、トランシーバー、防煙マスクなど

帰宅困難者になった場合

●情報の収集

携帯電話やインターネットなどを活用し、正確な情報を把握してください。国や県、市、警察署、消防署などからの情報や防災行政無線などの放送に注意してください。

情報収集は、**情報の収集ページ**を参照

災害時に家族などと連絡が取れるよう日頃から連絡方法を決めておきましょう。また、災害用伝言サービスなどを活用することで、安否などに関する伝言を登録及び確認することができますので活用方法を覚えておきましょう。

●むやみに移動を開始しない

大規模な災害が発生した場合は、被害状況が分からないまま慌てて行動すると、余震による建物の倒壊など、思わぬ危険に遭ったり、応急活動の妨げになってしまいます。

大規模災害時は、救急・救助・消火、緊急輸送などの応急活動を迅速に行う必要があることから、「むやみに移動を開始しない。」という基本原則を徹底するようお願いします。

避難 避難にあたって

避難情報の種類

警戒レベル3 高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難	避難に時間がかかる高齢者や障害のある方、避難を支援する方などは危険な場所から安全な場所へ避難しましょう。土砂災害の危険性がある区域や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方も、この段階での避難が強く望まれます。
警戒レベル4 避難指示	危険な場所にいる人は全員避難	避難指示が発令された地域にいる方は、全員速やかに危険な場所から避難してください。次の段階の警戒レベルとなった場合、安全に避難ができる状況ではないため、この警戒レベルまでに避難することが必要です。
警戒レベル5 緊急安全確保	命の危険 発令を待ってはいけません	すでに災害が発生しているか、又は災害が発生直前だったり、命が危険な状態ですので、直ちに安全な場所で命を守る行動をとってください。避難場所への避難が危険な場合、自宅の上の階や、屋から離れた部屋に移動するなど、その場でできる少しでも身の安全を確保するための行動をとるようにしましょう。

避難時に注意すること

① 避難する前にもう一度火元を確認し、ブレーカーを切る。
② 身分を証明できるものを持参する。
③ 外出中の家族に避難先がわかるように連絡メモを残す。
④ 荷物は欲張らず、最小限のものを持ち出す。
⑤ ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護する。
⑥ 車やオートバイでの避難は避け、歩いて避難する。
⑦ 子ども・お年寄りなどの手を握って避難する。
⑧ 一人で避難せず、近所の人たちと集団で避難する。
⑨ 避難する道は、狭い道・側際、川べりなどは避ける。
⑩ 最寄りの安全な避難所予定施設に避難する。

非常持ち出し品の準備　準備ができたらチェック！ ☑

携帯ラジオ ☐
根拠や確証のないうわさに惑わされずに正しい情報を得るため、小型で軽くFM と AM の両方が聴ける携帯ラジオとその予備電池を忘れずに。

ライト・ろうそく ☐
停電時や夜間の移動に欠かせないライトと予備の電池を、ろうそくは太くて安定のよいものを忘れずに。

飲料水・食料 ☐
食料は火を通さなくても食べられるものを、水はミネラルウォーターなどを、乳幼児がいる場合は粉ミルクなどを忘れずに。

生活用品 ☐
ライター（マッチ）、缶切り、ティッシュ、ビニール袋など を、乳幼児がいる場合は哺乳瓶などを忘れずに。

衣　類 ☐
上着、下着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなどを、乳幼児がいる場合は紙おむつなどを忘れずに。

救急薬品・常備薬 ☐
ばんそうこう、ガーゼ、包帯、三角巾、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、鎮痛剤、目薬、ピンセットなどを、持病のある方は常備薬を忘れずに。

ヘルメット（防災頭巾） ☐
屋根瓦や看板などの落下物から頭を守るためのヘルメット（防災頭巾）などがあると便利

通帳類・証明類、印鑑 ☐
預金通帳、健康保険証、免許証、住民票の写し、印鑑などがあると便利

現　金 ☐
現金は、紙幣と硬貨の両方を持っていると便利

ペット用品の準備　準備ができたらチェック！ ☑

日頃から準備をしておけば、災害時にペットが周囲の人たちにも受け入れられやすく、人と動物のストレスや不安を少しでも和らげられます。

最低3日分のペットフード及び水	☐	ケージ（猫などの小型動物は洗濯ネットなどを代用）	☐
食器	☐	ペットと一緒に写っている写真	☐
トイレシート、新聞紙、ビニール袋、スコップなどトイレ用品	☐	ペットに関する記録（ワクチン接種履歴、手術履歴など）	☐
慣れているタオル、ぬいぐるみなど	☐	リード（予備として複数用意、ロングリードは不可）	☐
常備薬	☐		

知識 土砂災害・備え、知識

土砂災害の種類と特徴

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。

土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されます。
流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmの速度で一瞬のうちに人家や畑などを破壊します。

地滑り

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象です。
一般的に、移動する土の塊の量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。

土砂災害の前兆現象

● 土砂災害警戒区域とは、土砂災害防止法に基づき、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域のことです。

● 土砂災害の前兆現象に気を配り、早めの避難を心掛けましょう。

こんな「時」は注意

- 崖からの水が濁る
- 崖から小石がパラパラと落ちる
- 崖から木の根が切れる音がする

こんな「場所」は注意

- 崖に亀裂が入っている所
- 崖の上部がせり出している所
- 急な崖で高い所

土砂災害から身を守るために

土砂災害は長雨や大雨が降っている時だけではなく、雨が止んでからも十分な警戒が必要です。

- 土砂災害警戒区域の確認
  ハザードマップを見て、土砂災害警戒区域の場所を事前に確認しておきましょう。
- 大雨警報、土砂災害警戒情報などに注意する
  大雨や長雨が降るときは、気象庁から発表される大雨警報や土砂災害警戒情報などに注意しましょう。
- 土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する
  土砂災害警戒情報は、自主的に避難する目安です。土砂災害警戒区域付近に住んでいる方は土砂災害警戒情報が発表されたら、早めに近くの避難所などの安全な場所に避難しましょう。

情報 情報の収集

災害時の声の伝言板 171 災害用伝言ダイヤル

災害時には電話が混雑し、家族と連絡が取れなくなる方が多くいます。そんなときには「171」をダイヤルし、利用案内に従って伝言の録音・再生を行ってください。利用の開始や録音件数（最大10件）など、利用条件についてはNTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じてお知らせします。

録音方法 171→1→0476→自宅の電話番号
案内放送が流れます。　市外局番が必要です。

再生方法 171→2→0476→自宅の電話番号
案内放送が流れます。　市外局番が必要です。

※災害用伝言ダイヤルは、一般電話のほかに公衆電話、携帯電話及びPHSからも利用できます。

災害用伝言板への安否情報及び確認方法

登録方法

①Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択 → ②「登録」を選択 → ③「無事です」等の状態の選択と100文字以内のコメントを入力 → ④「登録」を押して完了

確認方法

①Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択 → ②「確認」を選択 → ③安否の確認したい人の携帯電話番号を入力 → ④「検索」を押して伝言を確認

NTTdocomo	au（KDDI）	SoftBank	Y!mobile
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi	http://dengon.ezweb.ne.jp/	http://dengon.softbank.ne.jp/	http://dengon.ymobile.jp/index.html

PHSやパソコンなどからも伝言が確認（災害時のみ）できます。　※詳しくは、各携帯電話会社にお問合せください。

市からの情報提供方法

富里市防災防犯メール

市では、携帯電話やパソコンで手軽に気象情報などの防災・防犯情報を受け取れるメール配信サービスを実施しています。登録は無料（通話料は別途必要）です。

携帯電話またはパソコンから、次のアドレスに送信し、返信されるメールの内容に沿って登録操作を行って下さい。　t-tomisato@sg-p.jp

[スマートフォン]　[フィーチャーフォン]

※携帯電話のバーコードリーダー機能を使うと、この2次元コードからアドレスを読み取れます。

富里市ホームページ

富里市防災防犯情報

市のホームページでは、防災行政無線、防災防犯メールの伝達内容や、防災マップの外国語版（英語・中国語・スペイン語）が確認できます。
http://www.city.tomisato.lg.jp/

市防災行政無線情報フリーダイヤル

0120-114-994

防災行政無線の放送を聞き逃したときは、各情報を固定電話・携帯電話で確認することができます。

緊急連絡先一覧　火事・救助・救急 119 ／警察 110

区分	名　称	電話番号
市の機関	富里市役所	93-1111
	日吉台出張所	93-3050
	水道事業所	93-3340
	富里市消防本部・署	92-1311
	富里市消防署北分署	91-0119
	富里市福祉センター	92-2301
	社会福祉協議会	92-2451
	富里北部コミュニティセンター	93-3755
	中部ふれあいセンター	91-3363
	富里市すこやかセンター	93-4121

区分	名　称	電話番号
警察	成田警察署	0476-27-0110
	七栄交番	93-0009
	日吉台交番	91-2081
	実の口駐在所	94-1328
	両国駐在所	93-1004
ライフライン	東京電力㈱カスタマーセンター	0120-995-552
	東日本電信電話㈱千葉支店	043-211-8652
	東京ガス㈱/保安指令センター	0570-00-0261

区分	名　称	電話番号
病院	成田土木事務所	0476-26-4831
	印旛健康福祉センター	0476-26-7231
	成田赤十字病院	0476-22-2311
医療機関	日本医科大学千葉北総病院	0476-99-1111
	日吉台病院	0476-92-0001
	高根病院	0479-77-1133
	成田富里徳洲会病院	0476-93-1001
	国際医療福祉大学 成田病院	0476-35-5600

知識 地震の知識

震度の目安

震度0　人は揺れを感じない。

震度1　屋内にいる人の一部が、僅かな揺れを感じる。

震度2　屋内にいる人の多くが揺れを感じ、電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。

震度3　屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。棚にある食器類が、音を立てることがある。

震度4　かなりの恐怖感があり、つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立て、座りの悪い置物が倒れることがある。

震度5弱　多くの人が、身の安全を図ろうとする。
座りの悪い置物の多くが倒れ、窓ガラスが割れて落ちることがある。

震度5強　非常な恐怖を感じる。
テレビが台から落ちることがある。
補強されていないブロック塀の多くが崩れる。
多くの墓石が倒れる。

震度6弱　かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造建物では傾壊するものもある。
地割れや山崩れなどが発生することがある。

震度6強　多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では倒壊するものがある。
地割れや山崩れなどが発生することがある。

震度7　耐震性の高い建物でも、傾いたり、大きく破損するものがある。
大きな地割れ、地すべりや山崩れが、発生し、地形が変わることもある。

マグニチュードと震度の違い

地震の起こった場所（震源）からでるエネルギーの大きさをマグニチュードといい、ある場所で感じる地震の揺れの強さを震度といいます。

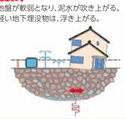
一般的に、マグニチュードが大きくても、震源が遠い場合や深い場合は震度が小さくなります。また逆にマグニチュードが小さくても、震源が近い場合や浅い場合は大きくなります。

液状化現象

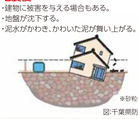
液状化現象は、①強い揺れ、②高い地下水位、③緩い砂地盤の3つの条件で発生し、建物が傾斜したり、沈み込む等の被害が発生します。また、上下水道等のライフラインが被害を受け復旧までの間、不便な生活を強いられます。

地震前

地震時
・地盤が軟弱となり、泥水が吹き上がる。
・軽い地下埋没物は、浮き上がる。



地震後
・建物に被害を与える場合もある。
・地盤が沈下する。
・泥水がわきだし、かわいた泥が舞い上がる。



※谷和の大きさは誇張されています。

図:千葉県防災ポータルサイトから引用

備え 地震への備え

日頃からの話し合い

家族一人一人の役割分担

日常の防災の役割と地震が起きたときの役割の両方を決める。

非常持ち出し品のチェックと入替え

必要な品がそろっているかチェックし、忘れずに新しいものに取り替える。

災害時の連絡方法や避難場所などの確認

家族と離れ離れになったときの連絡方法や避難場所などを確認する。

災害時要配慮者の把握

避難に支援が必要な人を把握し、支援の体制づくりに協力する。

地震時の身の守り方

まずは身の安全

家具などが倒れたり、落下物などによる危険があるので、机の下などに潜り込んで身の安全を確保する。
激しい揺れで動けない場合は、手近な布団や座布団で頭を保護する。

出火防止

すぐに火が消せる場合は、まず火の始末をする。余裕がないときは、身の安全を確保し、揺れの合間をみて火の始末をする。
ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜く。

逃げ口の確保

地震の揺れにより建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがあるので、ドアなどを開けて逃げ口を確保しておく。特に中高層住宅では注意する。

初期消火

火事が発生したら、「火事だ」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め、初期消火に努める。
初期消火は天井に燃え移る前までを目安とする。

慌てない行動

瓦や窓ガラスが落下する危険があるので無闇に外に飛び出さない。
家屋の倒壊や火災の危険がある場合で、屋外に避難するときは、落下物に注意して避難する。

家の中の地震対策

家具は倒れにくくしておく。

家具と壁などの間に隙間などの遊びがあると倒れやすくなるので、家具の下に小さな板などを差し込んで、家具が壁に寄り掛かるよう固定する。重の上に置く場合は、家具の下に板を置く。

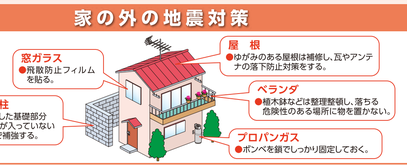
寝室には家具などを置かない。

寝ているときや、子ども・お年寄り・病人などは家具などの下敷きになり、逃げ遅れる可能性があるため、寝室などには家具などが倒れやすい物を置かない。

出入口や通路に物を置かない。

いざというときに、出入口などを塞いでしまうことがないように、玄関などの出入口や、玄関などの出入口までの通路に家具などの倒れやすい物を置かない。

家の外の地震対策



備え 風水害に対する備え

台風

日本列島には、毎年多数の台風が接近し、又は上陸し、強風と大雨により度々大きな被害に遭っています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、予測は比較的困難です。中小河川の氾濫や崖崩れなどによる大きな被害が予想されるので、崖付近や造成地などでは気象情報に十分注意し、万全の対策を執るようにしましょう。

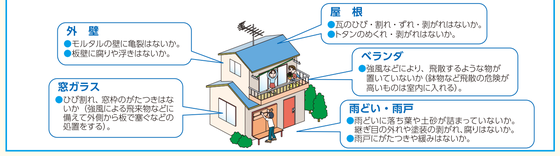
土砂災害

富里市には、19か所の土砂災害危険箇所があります。これらの地域は、台風や集中豪雨、地震などにより、大きな被害を被ることが考えられるので、地域ぐるみで十分な注意をしましょう。

1時間の雨量と降り方

1時間の雨量	予報用語	雨の降り方
10～20ミリメートル	やや強い雨	ザーザーと降る。この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
20～30ミリメートル	強い雨	土砂降りで地面一面に水たまりができる。小規模の崖崩れが始まる。
30～50ミリメートル	激しい雨	バケツを引っ繰り返したように降る。道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要
50～80ミリメートル	非常に激しい雨	滝のように降る。都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。
80ミリメートル以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

家の中の風水害対策

- 停電に備えてライトや携帯ラジオの準備をしましょう。
- 避難に備えて非常持ち出し品の準備をしましょう。
- 台風などの気象情報を注意深く聴きましょう。
- 断水などの恐れに備えて飲料水を確保しましょう。
- 浸水などの恐れがある所では、家財道具や食料品・衣類・寝具などの生活用品を高い所に移動しましょう。
- 病人や、乳幼児・身体の不自由な方などを安全な場所に避難させましょう。
- むやみに外出するのは避けましょう。

家の外の風水害対策